

# 日本経済新聞

8月13日

月曜日

発行所 日本経済新聞社  
東京本社 ☎(03)3270-0251  
〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7  
大阪本社 ☎(06)6943-7111  
名古屋支社 ☎(052)243-3311  
西部支社 ☎(092)473-3300  
札幌支社 ☎(011)281-3211

放射線技術を手がける

環境浄化研究所(群馬県高崎市、須郷高信社長)は千葉大学などと共同で、水中に含まれる放射性ストロンチウムを高い効率で吸着する繊維を開発した。「グラフト重合」という技術を使い、ストロンチウムと結合する機能をナイロン繊維に持たせた。

## 放射性ストロンチウム 水中から吸着する繊維

環境浄化研など

東京電力福島第1原子力発電所の事故の影響で検出されている福島県内の放射性物質の除染につながる。千葉大工学部の斎藤恭一教授の研究室が基礎研究、環境浄化研が実用化研究、電子部品製造のサンエス工業(高崎市)が生産を担当する。

## 福島を除染にらむ

グラフトは「接ぎ木」0万分の1のストロンの意味。グラフト重合は、素材に放射線(ガンマ線)を当てて素材の分子を一部切り取り、そこに他の機能を持った材料を加える技術。今回、ナイロン繊維に放射線を当て、チタン酸ナトリウムというストロンチウムを吸着する物質を付け加えた。濃度が10PPM(PPMは10の需要を開拓する。

0万分の1)のストロンチウムを含む海水100ccに、開発した繊維1gを浸す実験をしたところ、1時間で大半のストロンチウムが除去できたという。環境浄化研はすでにセシウムを吸着する繊維を開発している。新開発の繊維と組み合わせた材料をつくり、除染用の需要を開拓する。